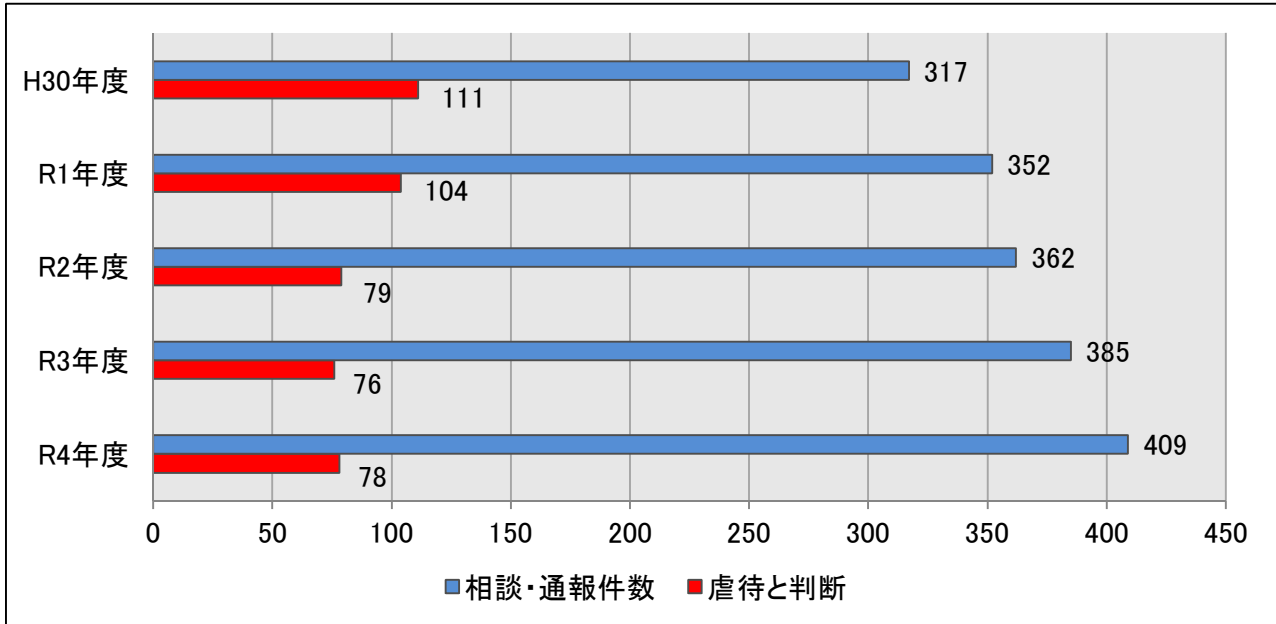


平成30年度～令和4年度 養護者による高齢者虐待に関する新潟市の状況 (R5.3.31現在)

- ①相談・通報件数
- ②事実確認の結果「虐待」と判断した件数

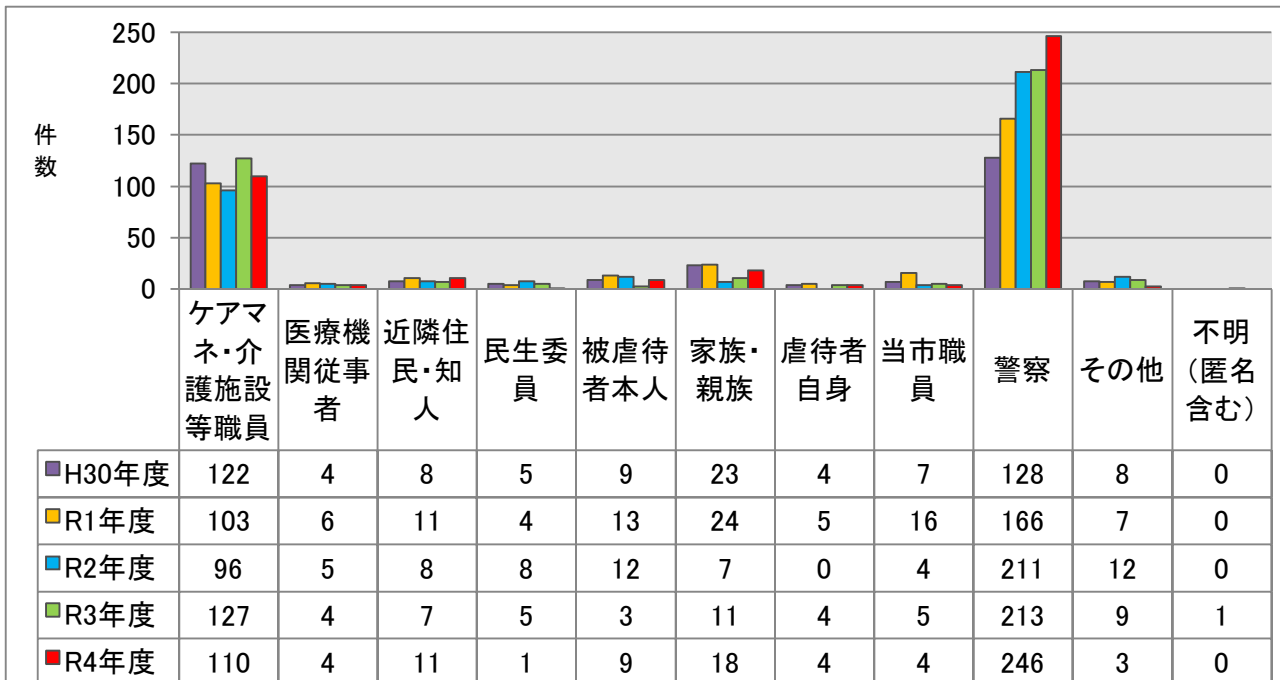


	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
相談・通報件数	317	352	362	385	409
虐待と判断した件数	111	104	79	76	78

- ・令和4年度の「相談・通報件数」は409件で、令和3年度より24件増加した。
- ・事実確認の結果「虐待と判断した件数」は78件で、令和3年度より2件増加した。
- ・令和4年度末時点で、今後調査を予定または調査の要否を検討中のものが13件。

③虐待の相談・通報者(複数選択あり)

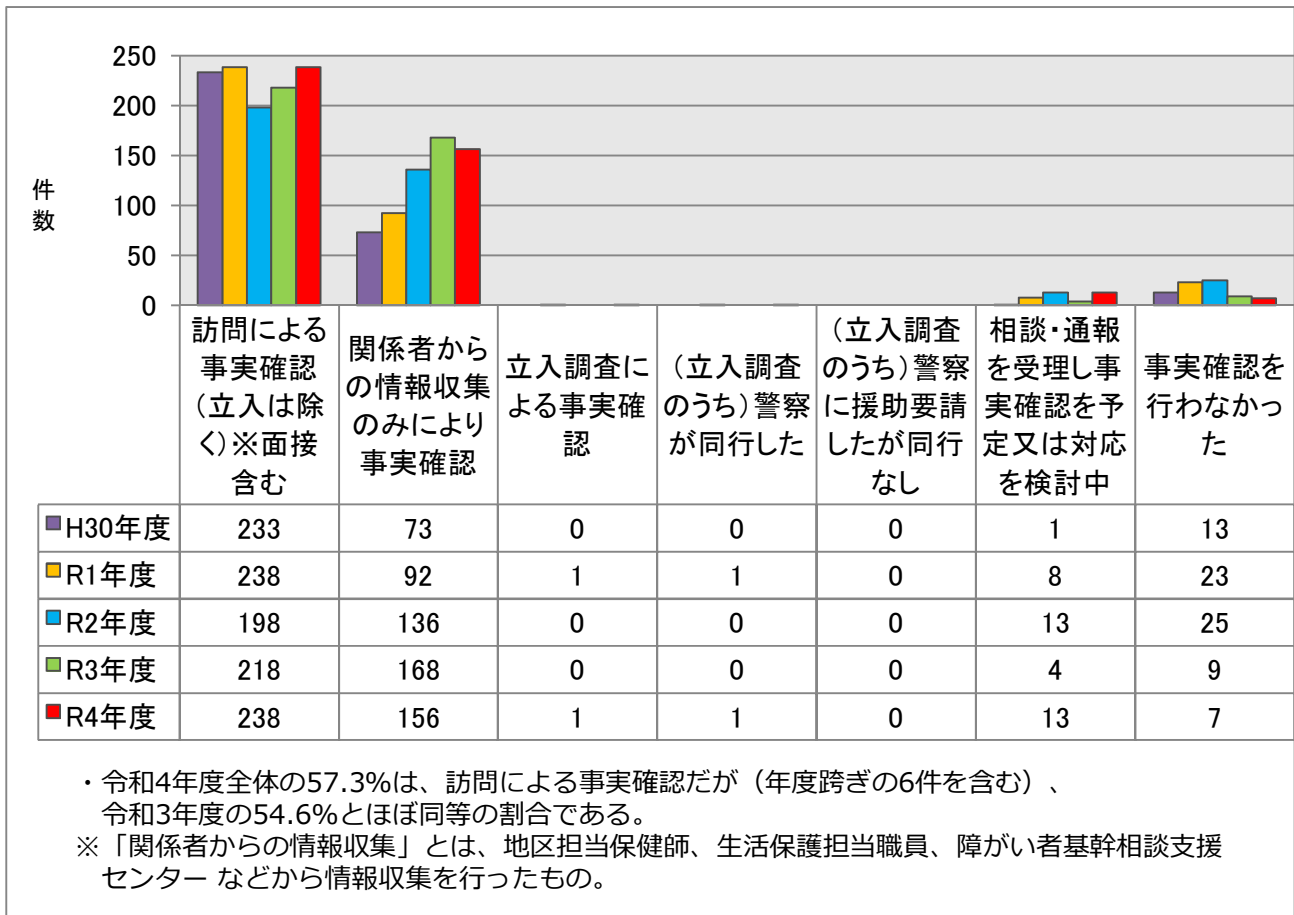
R4年度n=409



- ・令和4年度は、「警察」からの相談が最も多く246件で60.1%、次いで「ケアマネ・介護施設等職員」の110件で26.9%である。
- ※「その他」とは、市医師会 など。

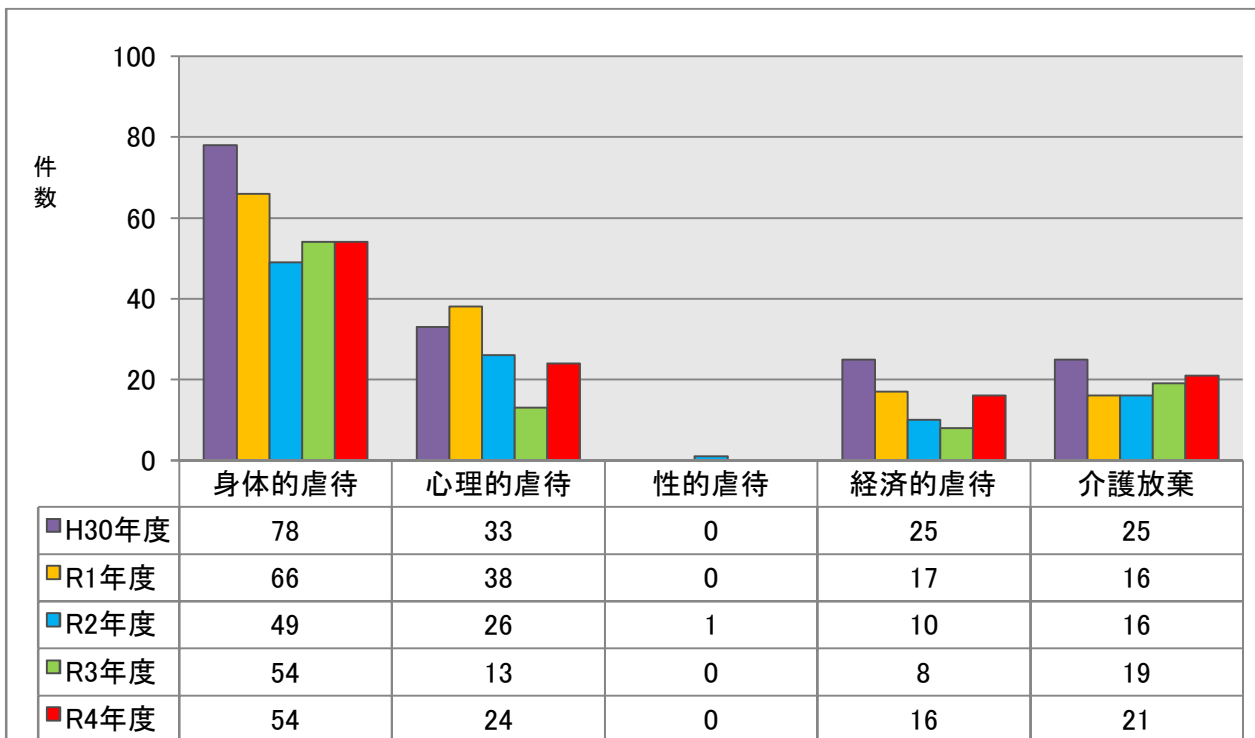
④事実確認の状況

R4年度n=415



⑤虐待種別の内訳(複数選択あり)

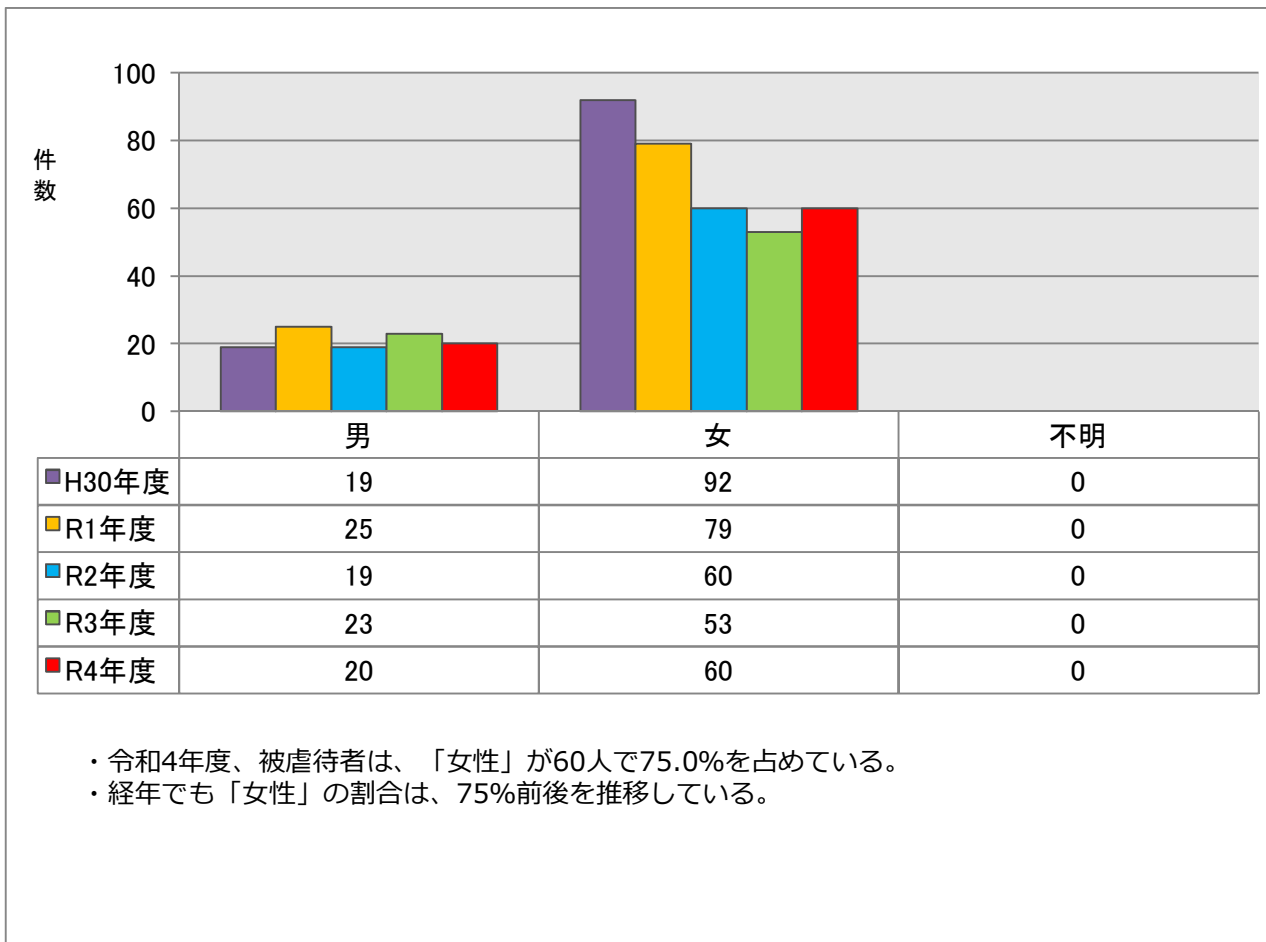
R4年度n=80



- ・令和3年度から判断を跨いだ事例のうち、1件を虐待と判断。また、2件は被虐待者（虐待を受けている人）複数による事例。
- ・令和4年度、虐待種別は、「身体的虐待」が最も多く54件で67.5%、次いで「心理的虐待」が24件で30.8%である。
- ・経年でも「身体的虐待」の割合が最も多い。

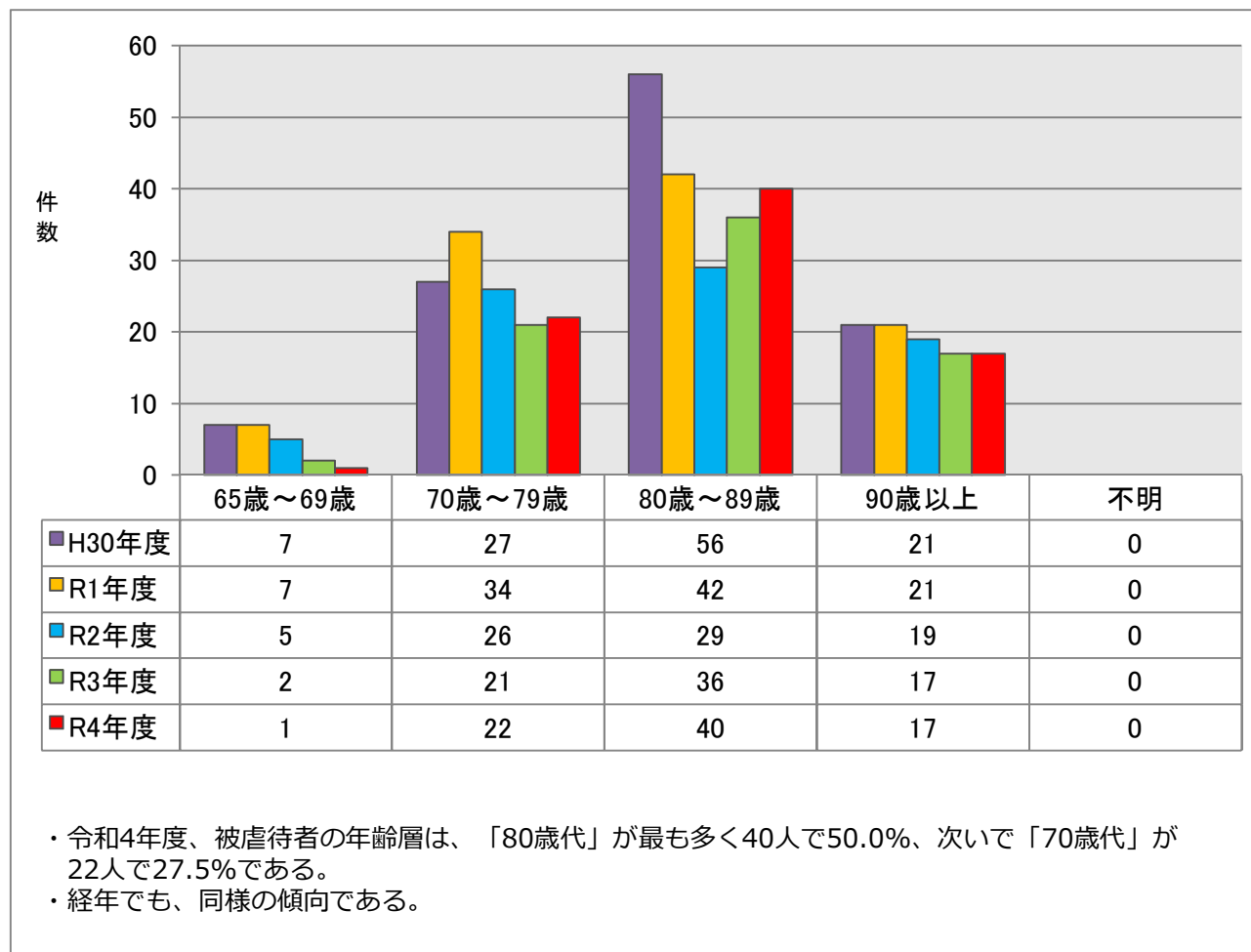
⑥被虐待者の性別

R4年度n=80



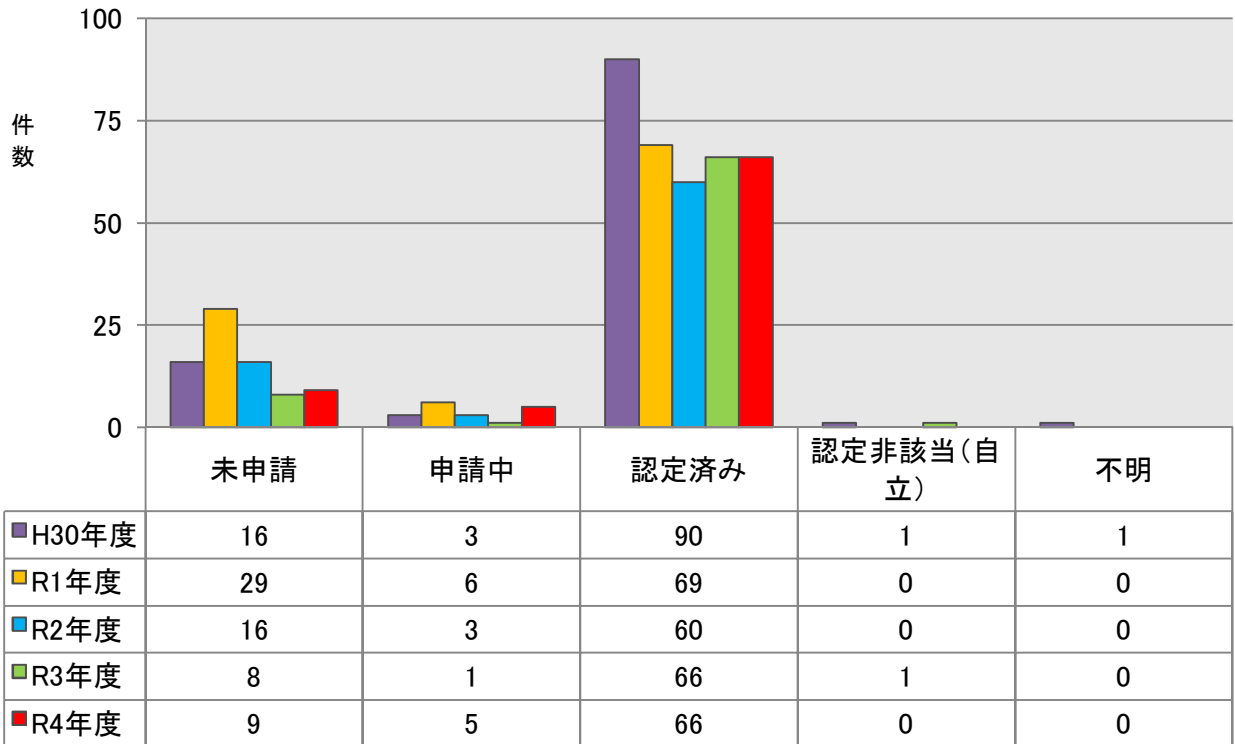
⑦被虐待者の年齢

R4年度n=80



⑧被虐待者の要介護認定の有無

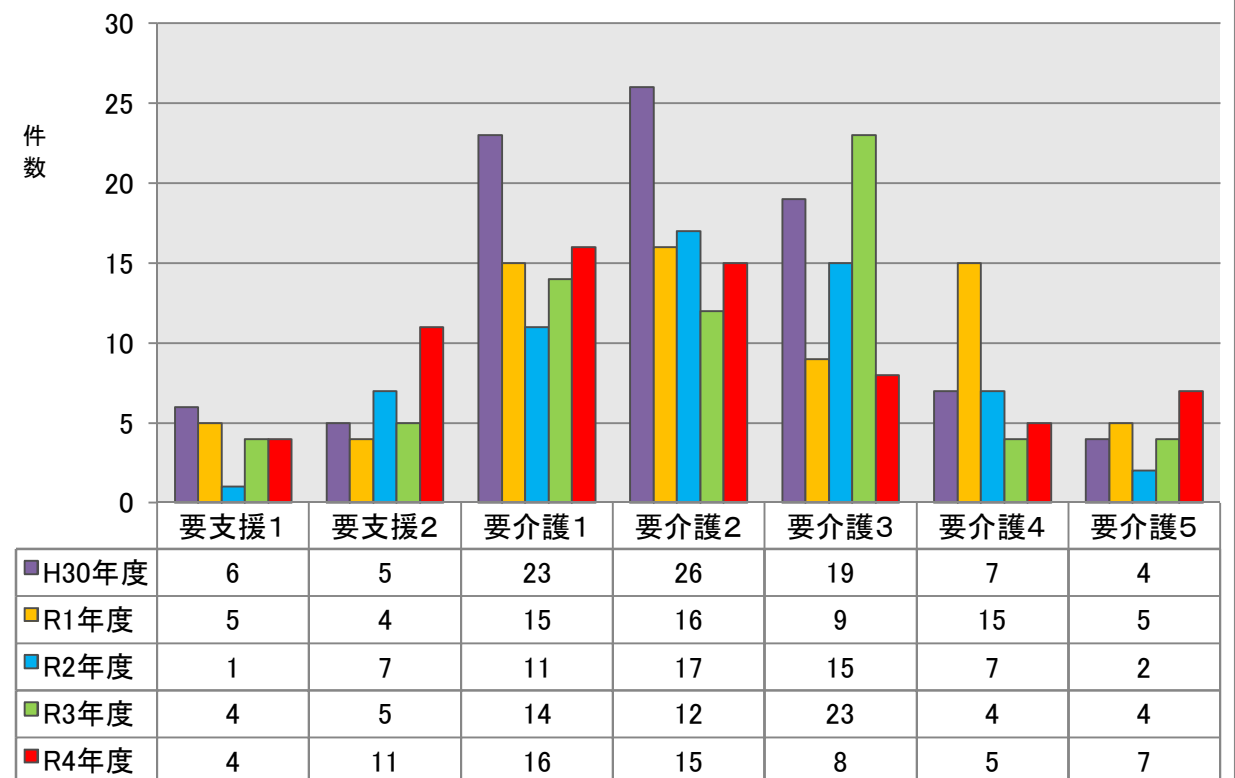
R4年度n=80



・令和4年度、「介護保険の要介護認定申請を行い、すでに要介護度の認定がある人」は、66人で82.5%である。

⑨被虐待者の要介護度

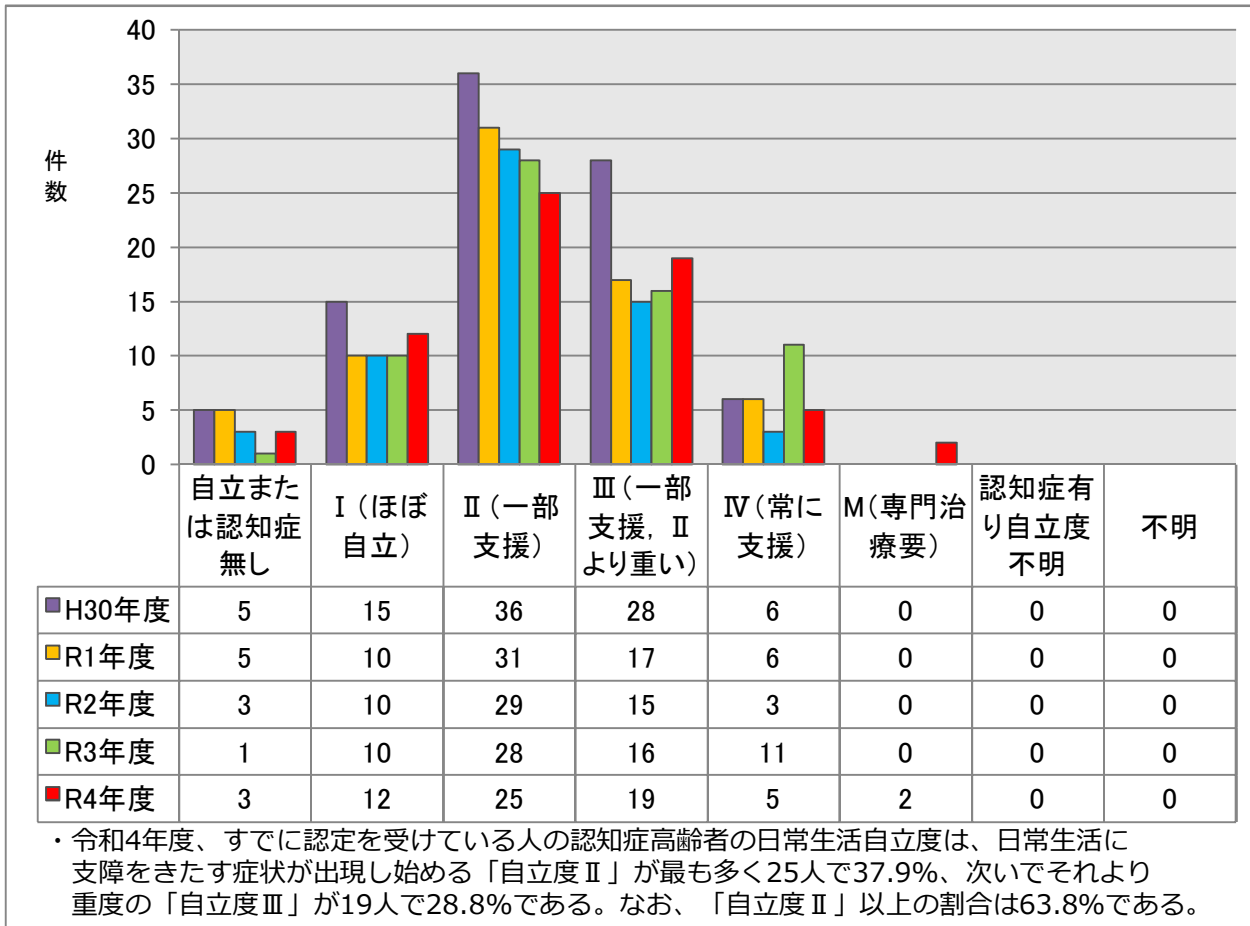
R4年度n=66



・令和4年度、すでに認定を受けている人のうち、「要介護1」が最も多く16人で24.2%、次いで「要介護2」が15人で22.7%である。
 ・経年で見ると、令和4年度は、他の年度に比べ、軽度者の割合が多い。

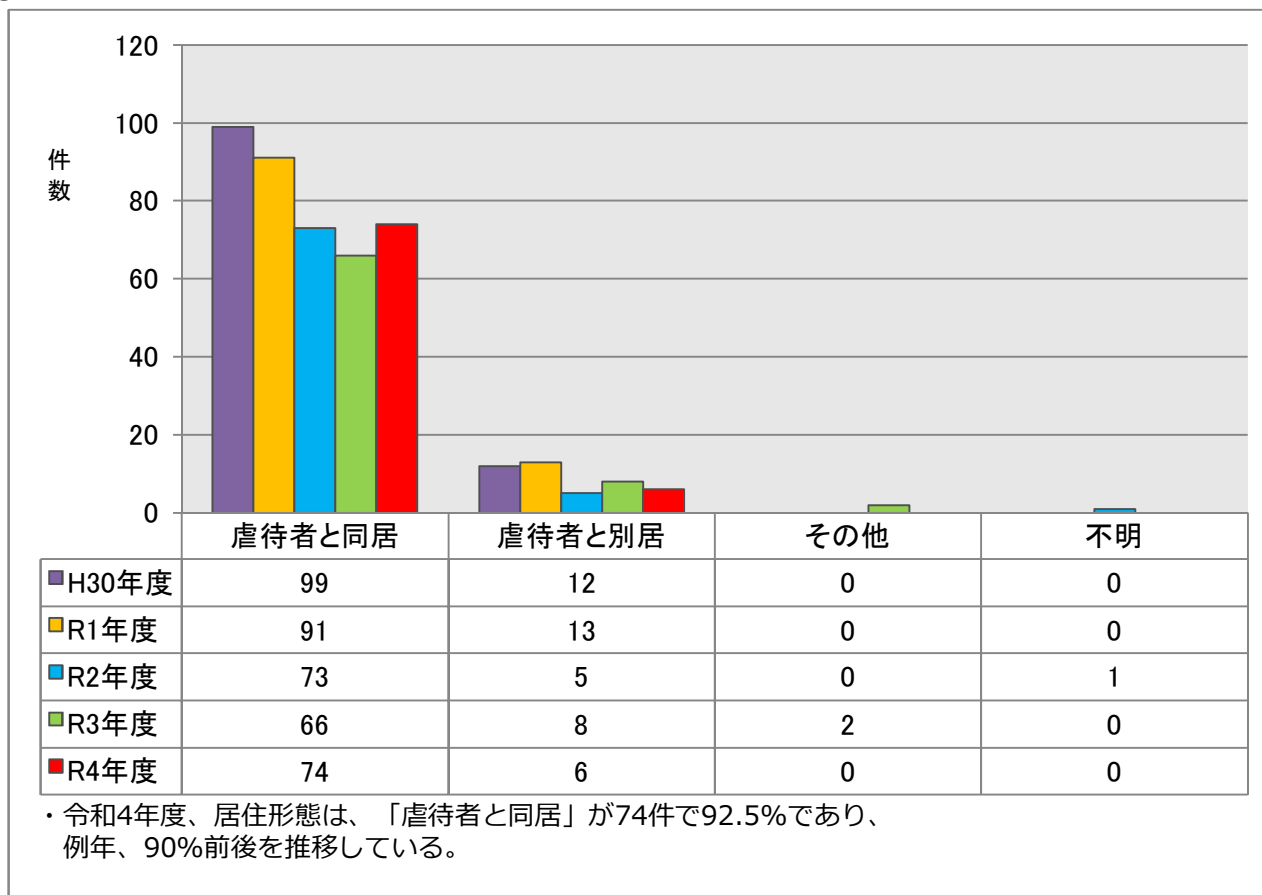
⑩被虐待者の認知症の有無

R4年度n=66



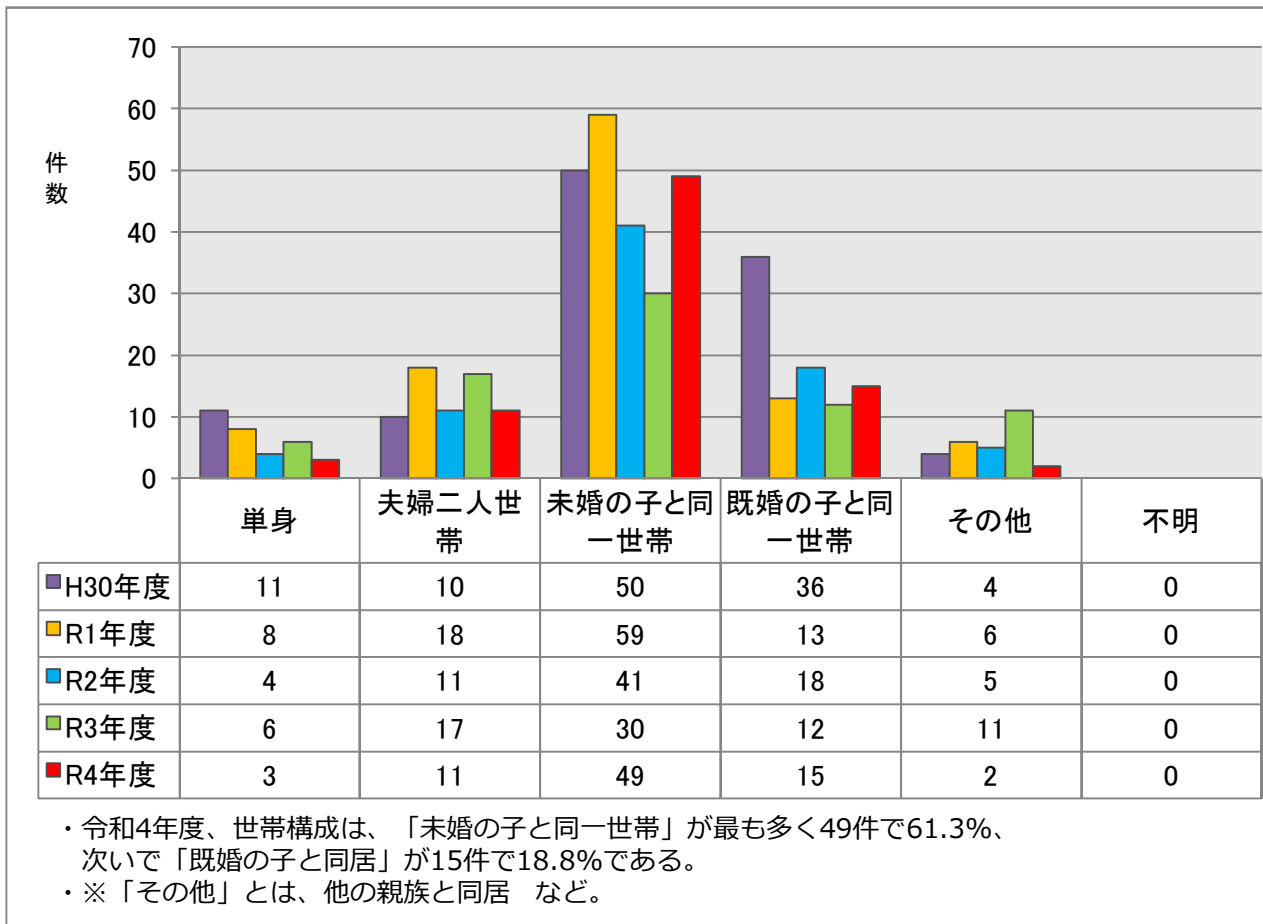
⑪虐待者との居住形態の内訳

R4年度n=80



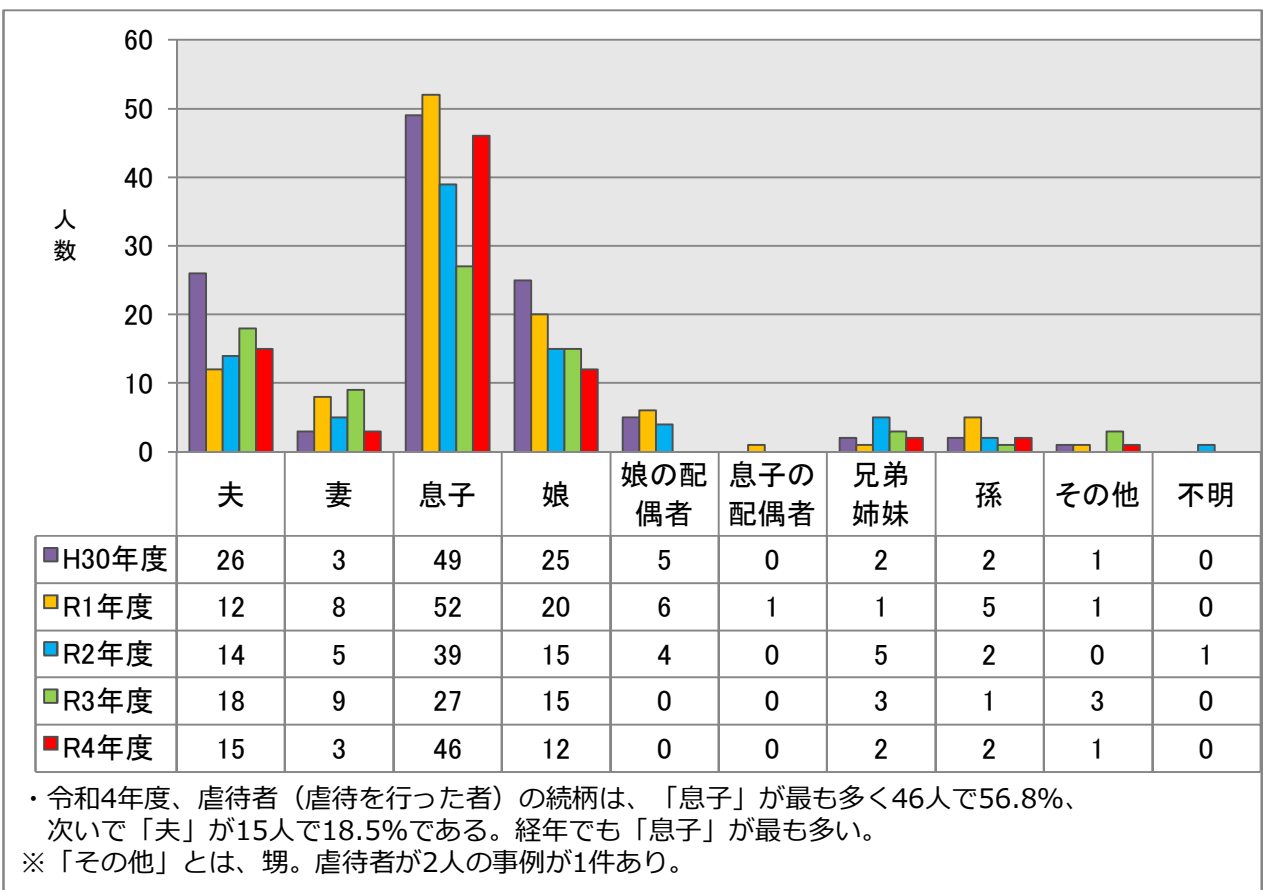
⑫被虐待者を含む世帯構成の内訳

R4年度n=80



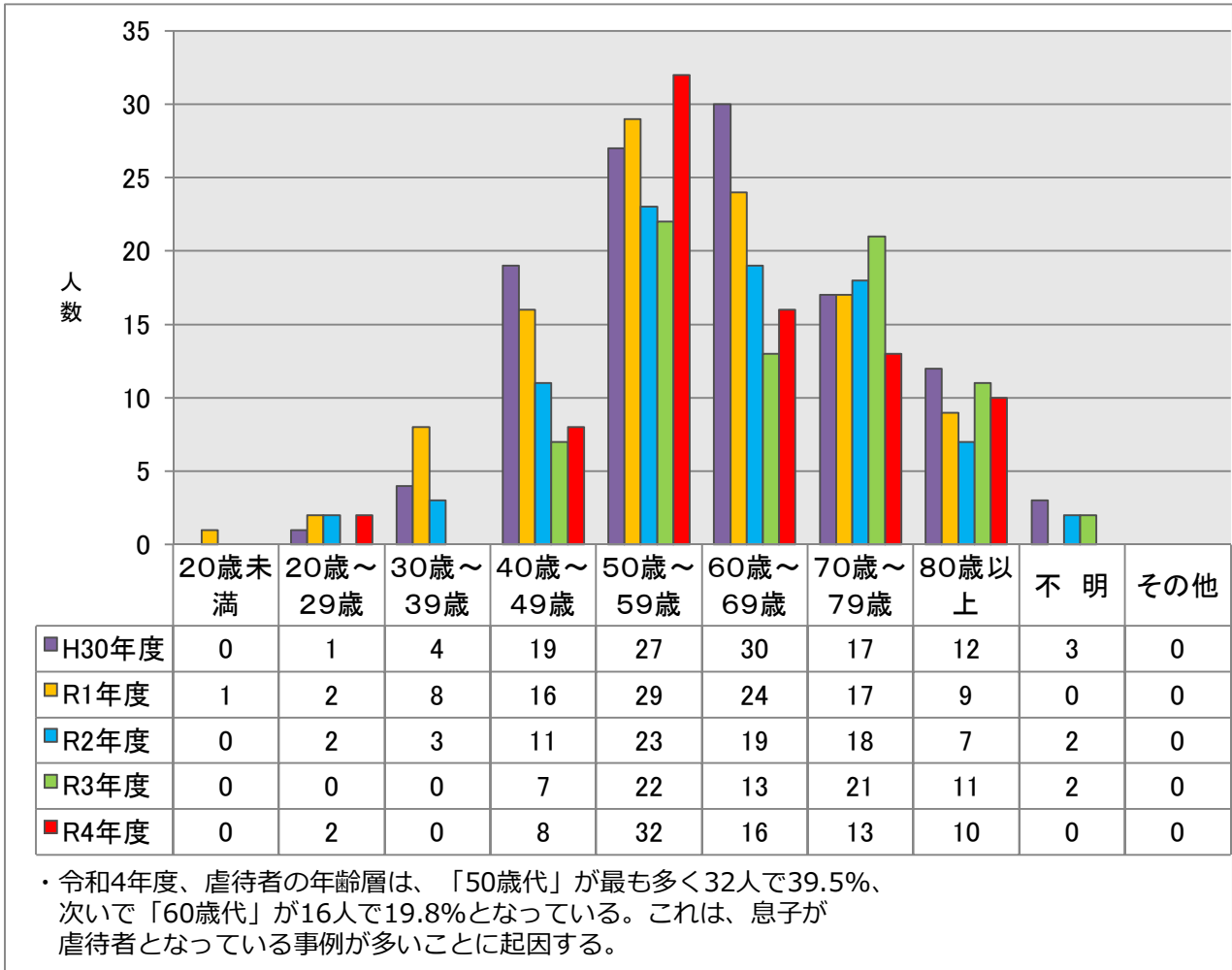
⑬虐待者の続柄(複数選択あり)

R4年度n=81



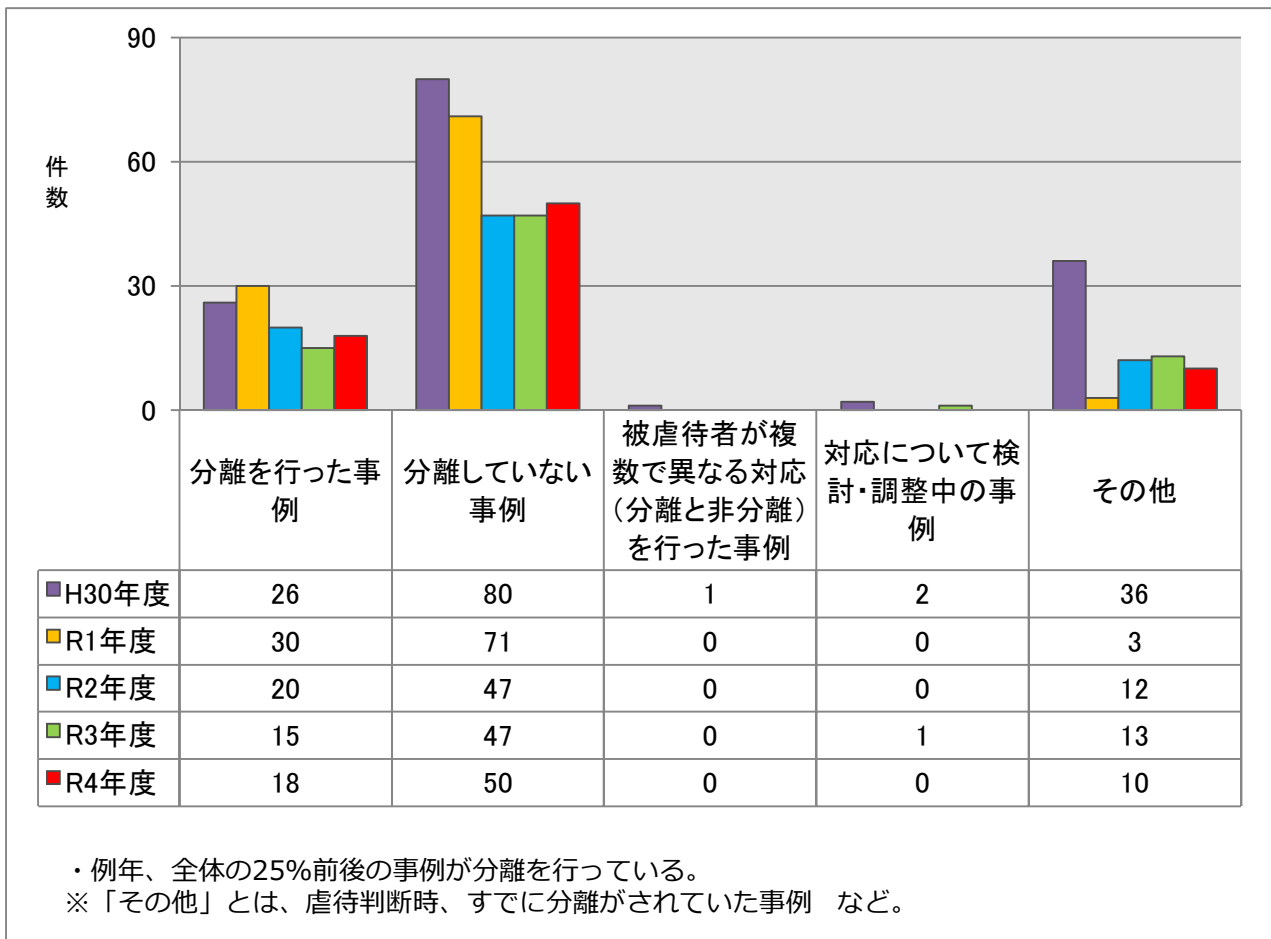
⑭虐待者の年齢

R4年度n=81



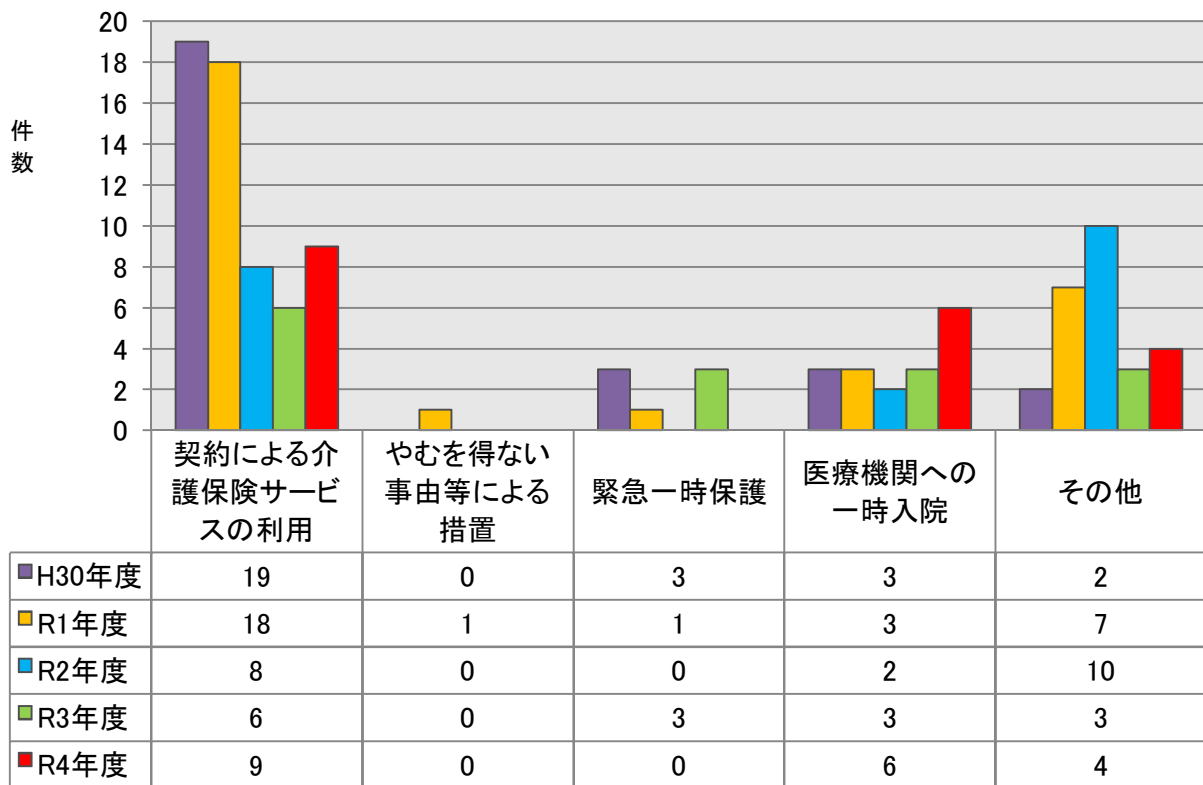
⑮虐待者との分離の有無

R4年度n=78



⑩分離を行った事例の対応の内訳

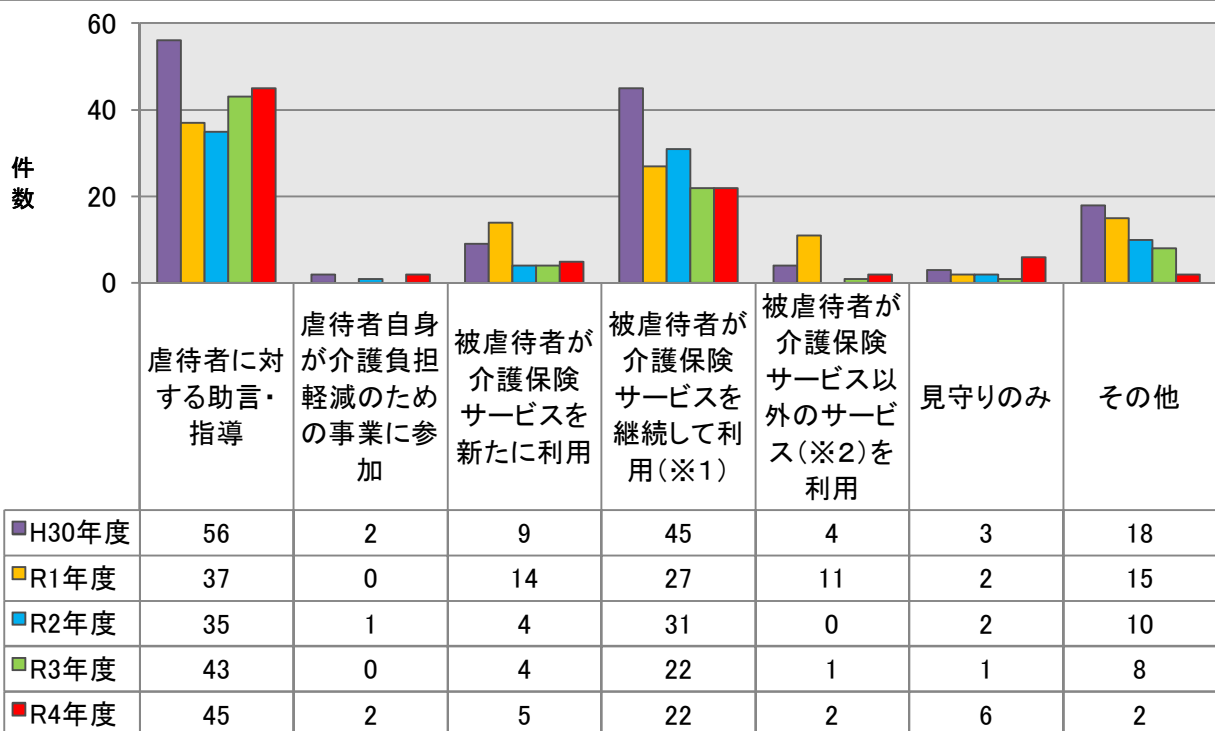
R4年度n=19



・令和4年度は、「契約による介護保険サービスの利用」が最も多く、次いで「医療機関への一時入院」を行った事例が多かった。
 ※「その他」とは、虐待者を高齢者から分離 など。なお、被虐待者が複数の事例1件を含む。

⑪分離していない事例の対応の内訳(「見守りのみ」を除き複数選択あり)

R4年度n=51

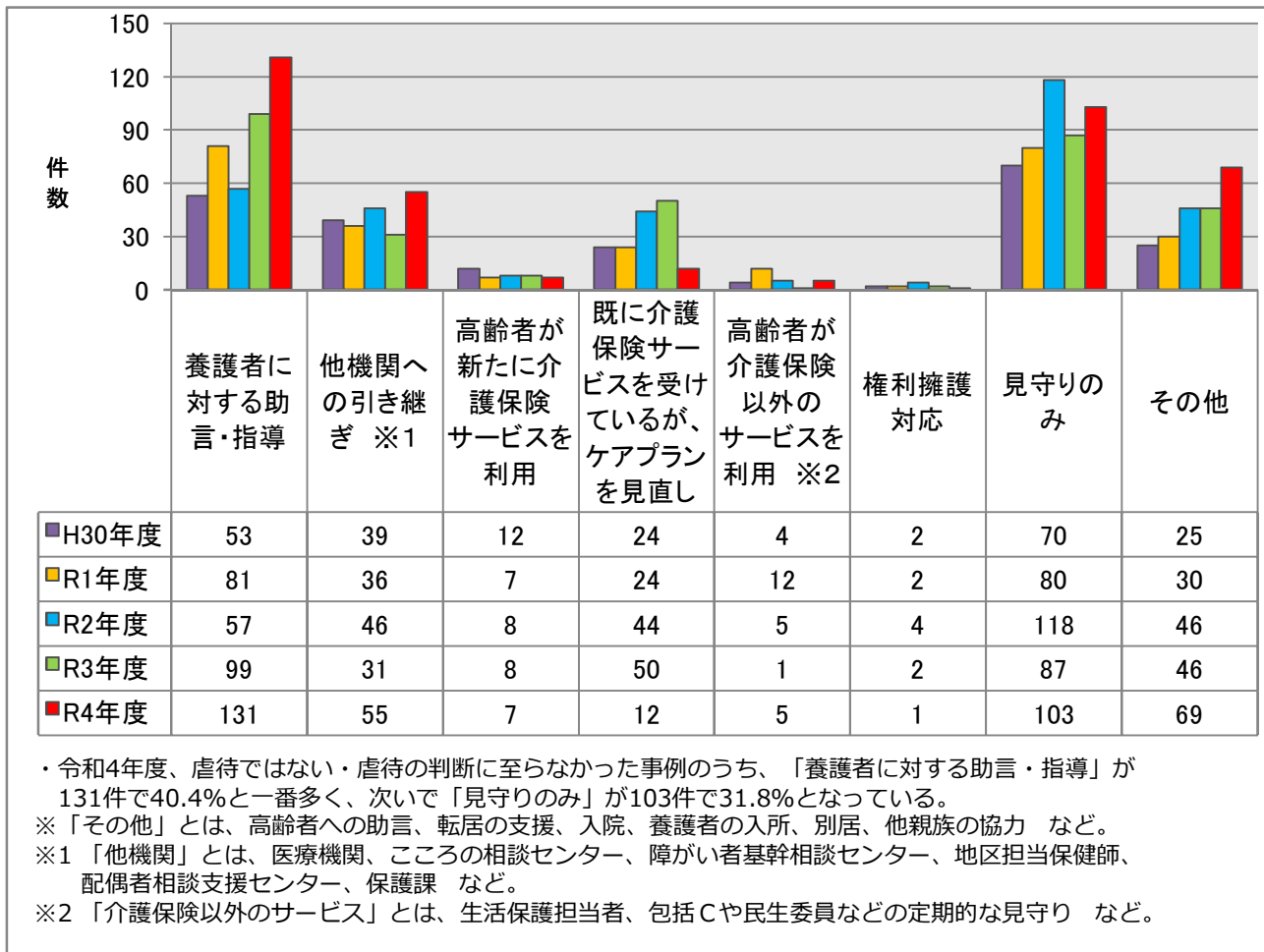


・令和4年度、分離を行っていない事例の対応について、「虐待者に対する助言」が最も多く45件で88.2%、次いで「被虐待者が介護保険サービスを継続して利用」が22件で43.1%となっている。
 ※「その他」とは、認知症初期支援チームの活用 など。なお、被虐待者が複数の事例1件を含む。
 ※1 被虐待者に対するケアプランの見直し。
 ※2 包括Cや民生委員などの定期的な見守りや定期訪問 など。

⑱虐待ではない又は虐待の判断に至らなかった事例の対応の内訳

R4年度n=324

(見守りのみを除き複数選択あり)



⑲権利擁護に関する対応

